

カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション  
令和4年度 地域ゼロカーボンWG・人材育成WG合同シンポジウム

# 当社における地域連携事例と 活躍できる人材への考察

2023年2月21日

日本電気株式会社

樫本浩二

# \Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、  
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。

# 企業概要

- 商号 日本電気株式会社(NEC Corporation)
- 本社 東京都港区芝五丁目7番1号
- 創立 1899年(明治32年)7月17日
- 代表取締役 執行役員社長兼CEO 森田隆之
- グループ主要事業  
社会公共、社会基盤、エンタープライズ、  
ネットワークサービス、グローバル
- 従業員(2022/3月)【単独】21,350名 【連結】117,418名
- 会社数(2022/3月) 連結子会社289社



航空

衛星

海底ケーブルシステム

医療

消防

製造

放送

エネルギー

金融

リテール

物流

教育

交通

官公庁

通信

# 海底から宇宙まで

世界中の多岐に渡る業種のお客さまに幅広く価値を提供

# NEC 2030VISION

NECは、Purposeの実現に向けた2030年の「ありたい社会像」として、生活者を取りまく「環境」「社会」「暮らし」の3つの階層と、5つの目指す社会像を描きました

## 環境

地球と共生して未来を守る

## 社会

個人と社会が調和し豊かな街を育む  
とまらない社会を築き産業と仕事のカタチを創る  
時空間や世代を超えて共感を生む

## 暮らし

人に寄り添い心躍る暮らしを支える



Environment



City



Communication



Business



Life



## 当社における地域連携の事例

# 信州大学×信州ブレイブウォーリアーズ×NEC・BBC

NECの「来場者分析サービス」を用いて、B1リーグ・信州ブレイブウォーリアーズのホームゲームにおける来場者の属性(性別・年齢)を測定。

測定データを信州大学の全学横断特別教育プログラム「ストラテジー&リサーチ・リテラシーゼミ」の学生が分析を行い、集客・グッズ売上向上を目的に施策を検討し、信州ブレイブウォーリアーズへ提案を行う。

(近日中に学生が信州ブレイブウォーリアーズに対して、プレゼン予定)

The screenshot shows a news article on the Nikkei News website. The article title is '信州大とNEC、信州ブレイブウォーリアーズのホームゲームでデータ分析・活用のフィールド実証を実施'. The article is dated January 6, 2023, at 13:31. The article text describes a collaboration between Shinshu University and NEC to implement a field experiment for data analysis and utilization at a home game of the Shizuoka Brave Warriors. The article mentions that the experiment was conducted in January 2023.

- 掲載媒体:
- ①日経新聞電子版
  - ②日経xTECH
  - ③Yahooニュース
  - ④マイナビニュース TECH+
  - ⑤クラウドWatch
  - ⑥MORNINGSTAR
  - ⑦財経新聞
  - ⑧JCN NEWSWIRE
  - ⑨ZDNetJapan
  - ⑩BizZine
  - ⑪信濃毎日新聞

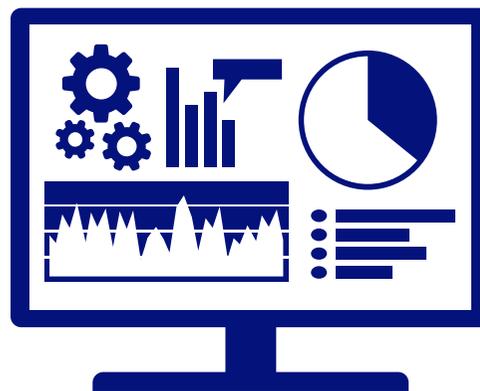
# 来場者分析サービス - 視来リンク- とは

来場者の属性傾向データ収集・分析・活用までの一連の流れを  
ノートPCとWebカメラだけで行えるマーケティングツール

属性傾向データ収集  
(推定年齢・性別、日時、人数カウント)

可視化／分析  
(BIツール搭載)

様々な場面での  
データ利活用



施策立案



プロモーション施策の  
効果検証



スポンサーへのレポート

…など

※撮影した画像の保存等を行わない、利用者のプライバシーに配慮したシステムです。顔から個人を特定する仕組みではありません。

# ホワイトリング(長野市真島総合スポーツアリーナ)



1998年長野オリンピック開催に当たり建設され、フィギュアスケート及びショートトラックスピードスケートの会場として使用された。  
2019年より以前から一部試合を開催していたBリーグ・信州ブレイブウォリアーズがホームアリーナとして使用している。



# ホワイトリングでの測定・機材設置の様子



メインエントランス  
入口横に設置し、来場中の様子を測定



グッズ売り場  
レジ後方に設置し、会計中の様子を測定

# 信州大学 講義の様子



施策検討グループワーク (12/5)



検討施策発表 (12/19)

# 取組詳細

◆ 各社の下記目的を踏まえ、信州大学様の講義内でデータ分析・施策立案のフィールドワークを実施

|      |                        |            |                      |      |                              |
|------|------------------------|------------|----------------------|------|------------------------------|
| 信州大学 | フィールド実証を通じた実践的な学習経験の提供 | NEC<br>BCC | スポーツ分野におけるデータ利活用効果検証 | 信州BW | チーム運営に活用可能な施策アイデアの獲得と実証効果の活用 |
|------|------------------------|------------|----------------------|------|------------------------------|

| 項目      | 内容   |
|---------|--|
| 概要      | 信州大学ストラテジー&リサーチ・リテラシーゼミの受講生が、信州ブレイブウォリアーズのホームゲームで取得した来場者の属性傾向に基づき、来場者増加などに向けた施策立案と施策効果の検証を実施<br>また、本取組について信州大学様と共同プレスリリースを発表   |
| 講義内容    | <ul style="list-style-type: none"> <li>来場者の属性分析と、データに基づいて立案した来場者増加・グッズ売上増加に向けた施策の実施</li> <li>施策による来場者増加・グッズ売上増加効果の検証</li> </ul>  |
| 実施期間    | 2022年11月～2023年1月（合計：約3か月）<br>* 全学横断特別教育プログラム「ストラテジー&リサーチ・リテラシーゼミ」内の8コマが対象  |
| 測定対象ゲーム | <ul style="list-style-type: none"> <li>①第7節ホームゲーム（11/26～27開催 秋田ノーザンハピネッツ戦@ホワイトリング）</li> <li>②第16節ホームゲーム（1/7開催 新潟アルビレックスBB戦@ホワイトリング）</li> </ul>                                   |
| 検証方法    | <ul style="list-style-type: none"> <li>会場内2か所（入場口、グッズ売場）で来場者の属性（推定年齢・性別、日時、人数カウント）を取得</li> <li>施策実施前（22年11月）と実施後（23年1月）のデータを比較し、時間帯ごとの推定年齢・性別データから来場者の属性の傾向を分析し、効果を確認</li> </ul> |
| 検証結果    | 信州大学の学生から信州ブレイブウォリアーズへ報告予定   |

# 地域で活躍できる人材とは ～地域ゼロカーボンにむけて

# 人材ってどこにいるのか？

行政(自治体)

内閣府の専門人材派遣制度の適用などで徐々に増えるも、環境対応職員はまだまだ少ない。

金融(投資家)

環境政策、企業(産業)のGHGプロトコル対応などで金融機関も積極投資の姿勢がみられる。ただ、「人材育成」の観点では動きは小さい。

企業

大手企業では環境経営に向けた制度設計など進む。人材も徐々に整備。地域企業ではまだ端緒にいたるところか。

消費者

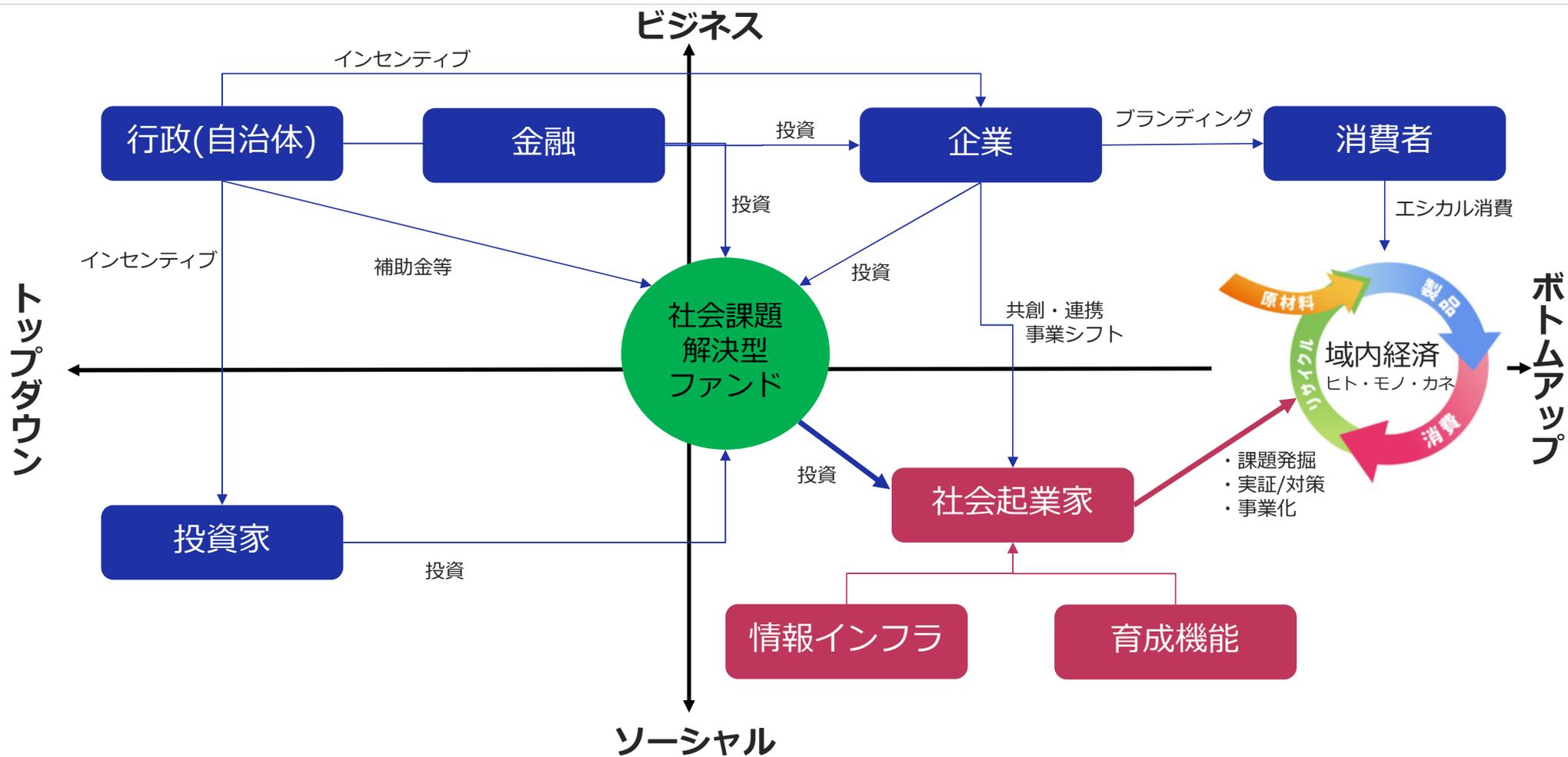
エネルギー価格高騰で、断熱・太陽光への関心が高まる。個人レベルでは環境に関心を持つ市民も増大。ただし優先順位は家計へのインパクト。

大学+どこか

ゼロカーボン・生物多様性など環境課題(社会課題)に関心をもち、  
且つ事業として社会実装が出来る人材の育成が急がれる。

<社会起業家>

# (例)サーキュラーエコノミーを支えるエコシステム



# 社会起業家を育成するための要素

## 行政(自治体)

ゼロカーボンに向けた明確な指針。優先順位付けと予算化。  
地域（企業・住民）に対する必要性の訴求。  
コミュニティに対する支援を実施。

## 育成プログラム

志を持つ人に他地域のノウハウや関連情報を共有。改題解決へのアプローチ手法や、データ利活用など社会課題解決型事業をスタートできるリーダーを育成。

## コミュニティ

ソフト：地域課題解決のため議論&フィールドワークができる場の提供。  
企業・金融・行政・学府など様々な立場が参画。  
ハード：コミュニケーションを促進するための情報基盤の整備。データ利活用による「効果の見える化」をはかる。

これらがそろえられる地域は持続可能且つ、ゼロカーボンな社会の実現に近づくのでは？

また、その街の魅力に惹かれた「意識高い系」の域外の人々が関係人口として関わることになるのでは？

## ゼロカーボン人材を育成する上で必要と思われること(私見)

- **地域のブランディング**が確立されていて、人を引き付けられる魅力を備えていること。（愛される地域であること）
- 地域の様々な情報がデータベース化されていて、**データドリブン**で考えられる**素地**があること。
- 地域の課題を解決したいと思った方がその**データにアクセス**できる**環境を構築**すること。
- 地域課題解決に対して、**資金**がつくこと。
- 上記条件が地域の行政・金融・大学・企業が認識できていること。

\Orchestrating a brighter world

**NEC**